

浦和博物館特別展「日光御成道」展示解説シート

現在の日光御成道

平成 23 年 10 月 4 日～12 月 11 日

明治時代には、将軍の社参や藩主の参勤交代^{さんきんこうたい}といった交通はとだえ、日光御成道は東京と鳩ヶ谷、岩槻を結ぶ一地方道になりました。沿道には、県庁や軍の師団^{しだん}などの重要な行政施設は置かれなかったため、他の主要街道のように国道として整備されることもなく、江戸時代からの道筋がほぼそのまま利用されていました。現在でもかつての面影^{おもかげ}をしのぶことができる場所も残っており、散策を楽しめるよう、案内板などの整備が一部で行われています。



大門神社 江戸時代には十二所権現と呼ばれました。長い参道の奥の本殿は江戸時代中期の建物です。



大門宿本陣表門 元禄7年(1694)の建物。本陣会田家は紀州鳥見役や大門宿名主も務めました。



大門宿脇本陣表門 安永5年(1776)建築と考えられています。江戸時代中期には西本陣とも呼ばれました。



野田のさぎ山跡 国指定天然記念物でしたが、環境の変化により、昭和47年(1972)以降営巣が途絶えました。



光徳寺 文禄4年(1595)開山と伝えられます。八代将軍吉宗の社参から、将軍の御休処が置かれました。



膝子一里塚 江戸から8里目の一里塚です。東側の塚が残っています。





岩槻藩は、明治4年(1871)7月の^{はいはんちけん}廃藩置県により岩槻県となり、同年11月に浦和県・^{おし}忍県と併合して埼玉県が誕生しました。このとき、県庁は岩槻に置くこと定められましたが、庁舎となる手ごろな建物がなく、旧浦和県庁の建物に置かれることになりました。

岩槻城の本丸から三の丸にかけては民間に払い下げられ、現在では住宅地となっています。南側の^{しんぐるわ}新曲郭・^{かじぐるわ}鍛冶曲郭は岩槻城址公園となり、城内にあった黒門、裏門が移築保存されています。



大橋 綾瀬川に架かる橋です。下流側には河岸が設けられ、江戸との間に舟運が通じていました。



姥坂 馬坂とも呼ばれていたようです。現在は東武野田線と東北自動車道で分断されています。



遷喬館 寛政11年(1799)に私塾として開校し、後に藩校になりました。建物が残っているのは県内唯一です。



時の鐘 武家屋敷と城下町の間、寛文11年(1671)に設置されました。現在の鐘は享保5年(1720)製です。

明治～大正時代の岩槻は、江戸時代に引き続き、鳩ヶ谷、川越、熊谷、越谷などと並ぶ県内有数の商業都市として繁栄しました。岩槻の人形づくりも、この時期に産業として成長しました。人形づくりがいつごろから始まったのかははっきりしませんが、伝承の一つとして、日光東照宮の建設に加わった職人が、その後岩槻に住み着いて技術を伝えた、ともいわれています。



岩槻一里塚 江戸から9里目の一里塚です。現在の岩槻区役所付近にありました。



相野原の杉並木 御成道には、岩槻と大門の間を除いて杉や松の並木がありました。